

平成29年1月4日
住友生命保険相互会社

平成29年 社長年頭挨拶

住友生命保険相互会社（社長 橋本 雅博）は、1月4日（水）に本社および東京本社で年賀式を行いました。以下に社長挨拶のあらましをご紹介します。

■時代の大きな転換点、そして新たな船出

激動の2016年が終わった。英国のEU離脱への決断、米国でのトランプ新大統領の就任決定、経済面ではデジタルイノベーションの進展、そして、マイナス金利政策。2016年は、後世から歴史の大きな転換点として記憶される年になるのではないか。そうした時代の大きな転換点にあって、住友生命は新年度から新しい中期経営計画を掲げ、新たな航海に乗り出す。遠く未来を見通すことは不可能だが、大切なのは、不確かな未来の予測に頼るのではなく、未来は知りえないという前提に立ち、対処していくことだ。

■すでに起こった未来へ対応し、さらに未来を自分で創る

知りえない未来に対処する方法は2つある。

○すでに起こった未来への対応

顧客志向の変化に対応するためにブランド戦略を掲げ、顧客接点における品質向上を進めてきた。さらにマーケット構造の変化に対応すべく、「1UP」による就労不能保障マーケットへの参入、代理店チャネルやメディケア生命での事業展開など、「すでに起こった未来」への対応を会社全体に広げてきた。

○未来を自分で創る

シメトラの完全子会社化、「Japan Vitality Project」の開始など、未来を創る挑戦の第一歩も踏み出している。特に「Japan Vitality Project」は、保険の概念・イメージを、健康になるために加入するというポジティブなものに180度転換するもの。世の中・お客さまと新しい共有価値を生み出すCSVプロジェクトとして推進していく。

■求められる3つの“真っ直ぐ”

この転換期に求められる心構えは3つ。「変化を真っ直ぐに受け入れる」こと、「顧客を真っ直ぐに見る」こと、そして「目標に向かって真っ直ぐに行動する」こと。変化に柔軟に、原点を見据え、「日本で一番薦めたい保険会社」の実現に向けて力強く行動して欲しい。

以上